

第2版の序

2017年8月に第1版を出版してから5年経過したが、物理療法においても日進月歩の進化が起こっている。なかでも、超音波や電気刺激による迷走神経刺激に代表される bioelectric medicine, 電気刺激療法, 体外衝撃波療法などの基礎・臨床研究が顕著に増加している。さらに、国際疼痛学会による疼痛の定義が改変され、新たな疼痛評価方法なども数多く報告されている。

そこで、第2版では、新たな物理療法として「体外衝撃波療法」を追加し、そのなかでもセラピストが実施可能な拡散型圧力波療法について、最新の理論はもちろん、技術的解説も含めて論述している。拡散型圧力波療法は、さまざまな疾患や障害に対する効果が報告されていて、新たな物理療法として学修、臨床実践してほしいと考えている。また第2版では、2020年に国際疼痛学会が発表した新たな疼痛の定義を反映させ、さらに、「リハビリテーション現場における痛みの評価」を加え、単なる痛みの強弱のみならず、多次元的评价を学修可能にしている。加えて第2版から、本書を教科書として採用してくれた養成校の教員に、知識定着のための穴埋め問題、国試に慣れるための選択問題を配布することになっている。

第1版から論述している物理療法については、よい点はそのままに、新たな研究報告や最新情報を追加している。さらに、臨床場面や健常人によるデモンストレーションなどの新たな画像、動画を加え、学習効果を上げやすいように工夫している。

本書によって、エビデンスに基づいて物理療法を適切に実施可能な臨床家や物理療法研究者が増加し、機器開発メーカーを含めた協働活動がさかんになり、結果的にさまざまなクライアントにより影響があることを祈念しています。

2023年1月

畿央大学健康科学部理学療法学科
庄本康治